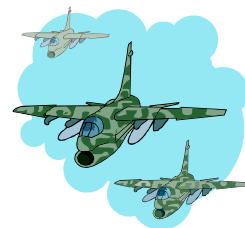


～平和の礎展2007関連事業～

市民が語る私の戦争体験『東京大空襲』

おしゃべりサロン「相互塾」



(第91回)

共催：調布市

<入場無料>

九死に一生を得た大空襲

～～1945年3月10日未明の焼夷弾無差別爆撃～～

日時：平成19年8月4日(土) 午後2時～4時

場所：調布市文化会館たづくり 12階大会議場 ※定員：当日先着150人

語り手：小川 芳枝さん 佐久間 雅之さん 田巻 裕子さん

山中 美子さん (いずれも調布市在住)

太平洋戦争において唯一の地上戦となった沖縄戦、広島・長崎への原爆投下と並ぶ大量殺戮・東京大空襲は、昭和20年(1945年)3月10日午前0時8分 約330機のB-29爆撃機が東京の下町に襲いかかり 焼夷弾約38万発を落とし、折からの強風にあおられ猛烈な勢いで40平方km(東京の3分の1)を焼き尽くした。約2時間半の爆撃で東京の下町一帯は灰燼に帰し 死者約10万人 負傷者4万人 消失家屋27万戸 罹災者約100万人に達した。東京大空襲では、B-29は日本の貧弱な防空能力を見越し、ほとんどの機銃と弾薬を降ろして通常の2倍の高性能焼夷弾を搭載していた。この焼夷弾は爆発力よりも燃焼力を重視し木造を主とする日本家屋を標的にしたものであった。爆撃の方法も左右を先に爆撃して炎の壁を作り、その間に避難した群集を後続の爆撃機が攻撃するという戦法が採用された。火災から逃れるため、燃えないと思われていた鉄筋コンクリート造りの学校などに避難した人もいたが、火災の規模が大きく、炎が竜巻や滝のように流れてきて焼死する人や炎に酸素を奪われ窒息死する人も多かった。川に逃げ込んだものの水温が低く凍死する人も少なくなかった。

【終了後、同じ会場にて懇親会(参加自由)を行います】

・終了時刻:午後5時30分

・参加費:1000円(参加者には相互塾入場時に頂戴します)



主催：特定非営利活動法人 調布まちづくりの会

共催：調布市

連絡先：森下 政信 (TEL & FAX 483-9993)

E-mail mmanob@sepia.ocn.ne.jp

調布市生活文化部文化振興課 (TEL 481-7139)

(ウラへ続く)